



CS通信

北海道余市養護学校
学校運営協議会
第2号(通巻第5号)
発行：令和5年12月15日

本校部会の様子

令和5年11月28日(火)、第2回学校運営協議会(コミュニティー・スクール:以下CS)本校部会が行われました。当日は、学校長を含め8名の委員の皆様にご出席いただきました。今回は小学部・中学部・高等部・訪問部(紹介ポスター)・寄宿舎の授業・施設見学を行い、子どもたちや授業の様子、施設の状況を知っていただいた後、熟議を行いました。各学部・寄宿舎がめざす子ども像について学部主事・寮務主任から説明し、地域とつながる教育活動を通して実現するためには、どのような学習をするとよいかグループで協議しました。委員の皆様からは教育活動の充実に向けて多くの御意見をいただきました。



【小学部の見学】



【中学部の見学】



【高等部の見学】



【寄宿舎の見学】

部会テーマ「余市町とつながる教育活動～めざす姿を叶える学習の充実～」

(1) グループ協議より

小学部グループ

- ・講師を招いて特産物を使った簡単な調理をするとよい。地域イベントの参加もよい。
- ・えぞうしカフェ・円山公園の利用がよい。
- ・余市町の資源を教員が調べて体験することが大切である。鮭の遡上、凧揚げなどもよい。
- ・余市町のゆるキャラ「ソーラン武士」に来校してもらい、ソーラン節を踊ってもらうとよい。



中学部・訪問部グループ

- ・オンライン校外学習によって、外出が難しい子どもも参加できて学びの機会が拡大する
- ・施設の見学や実習を行うことで、働く内容や働くことの意義を体験的に知ることができる。
- ・PTA 施設見学等を充実させることで、保護者同士が交流し、つながりができる。
- ・余市町農村活性化センターでりんごの学習やソーセージ作りができる可能性がある。



高等部・寄宿舎グループ

- ・地域清掃活動で拾ったごみをごみ処理場へ持って行って、社会構造のつながりを学ぶとよい。
- ・高校生との交流や異年齢での学習によって、社会性や人間関係を体験的に学び合う機会になる。
- ・地域での活動や交流によって、共生社会の実現に向けた学びだけでなく、地域創生にもつながる。
- ・地域活動ありきではなく、ねらいを達成する目的と手段であることを踏まえることが大事である。



(2) 学校長より

本校の児童生徒と地域の方々との関係については、「支える人・支えられる人」や「受け入れる・受け入れられる」というような関係性ではなく、それぞれが支え合うという関係性が大切です。今後も本校の子どもたちや地域の方々が生き生きと生活する社会に向けて、特色ある教育活動を行っていきます。

(3) 生田会長より(余市紅志高等学校校長)

余市養護学校の存在に感謝するとともに、生徒の成長の手助けをしてもらっています。次年度に向けて、目指している目標にいかにか近づくか、あるいは次の目標に達するためにはバリエーションなのか深まりなのか、それぞれ定めていく必要があります。共生社会の実現に向けて、今後も共に社会を創り上げ、目指していきたい。

- ・御意見や御感想等がありましたら、下記にアクセスするか、右の二次元バーコードからフォームを読み込み、お知らせください。【 <https://forms.gle/cKaKpFMZbccod58u6> 】



